

■那珂川町誕生記念 那珂川町馬頭広重美術館ご招待■

「那珂川町」の誕生を記念し、那珂川町馬頭広重美術館で開催中（11月27日（日）まで）の開館5周年記念特別展「広重画業展」に那珂川町民のみなさまを無料でご招待いたします。右上の招待券を切り取って美術館までお持ちください。この機会に歌川広重の名作を間近でご堪能いただければ幸いです。

お問い合わせは…那珂川町馬頭広重美術館 ☎0287-92-1199

那珂川町
馬頭広重美術館
開館5周年記念特別展
「広重画業展」
ご招待券
キリトリ



第1回

歌川広重 「月に雁」

うたがわひろしげ
歌川広重（1797～1858）は「東海道五拾三次之内」に代表されるように、浮世絵界における風景画の名手として有名ですが、花鳥画も得意としていたことはあまり知られていません。そのなかでも傑

作として特筆されるのが、本作品。昭和24年（1949）に販売された8円切手のデザインにも使用されています（この切手はコレクターに人気があり、高額な価格がつくことで有名ですね）。

雁は秋に日本に飛来し、春には南へと旅立っていく渡り鳥。つまり月と雁の組み合わせは秋景を示す定型的な図様です。広重は、中短冊の、極端に縦が長い形を巧みに利用することで、舞い降りる雁とその姿を照らす大きな満月を印象的に描きだしました。また、雲を摺り重ねることで、画面に奥行きを与えています。

わずか縦30数cm、横10数cmの小さな画面から、しみじみと伝わってくるのは、秋の寂寥感。それが月、雁、雲。たったこれだけのモチーフを組み合わせで創り出されているのです。最小の素材で最大の効果。広重の花鳥画の魅力はこんなところにあるのかもしれない。

画中の賛は「こむな夜か又も有うか月に雁」※ふりがなは筆者注。

秋月を愛でる風流さを持ちあわせる人物でいたいものです。

※この作品は、開館5周年記念特別展「広重画業展」（前期：10月23日（日）まで開催）に出品されます。ちなみに那珂川町馬頭広重美術館のロゴマークは本作品に捺された印章をモデルにしています。

さてこのような形で、おすすめする作品の魅力やその制作背景について、毎月一点ずつご紹介していきたいと思っておりますので、那珂川町の皆さん、どうぞよろしく願いたします。

（那珂川町馬頭広重美術館 学芸員 津田卓子）



歌川広重「月に雁」へ中短冊 天保五、七年（一八三四、三六）個人蔵

ミニギャラリー 作品募集！

あなたの作品をここに出品してみませんか？

絵画、写真、絵手紙、手芸などの作品をお待ちしております。

申込み・問合せ・企画財政課

☎0287-92-1114

コスモス・佐藤平八さん
（神奈川県在住
馬頭町出身）



ミニ ギャラリー

柿・佐藤京子さん
（小川）

